

第38回2022年ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」 審査概要

2023年1月19日

1. ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」 [応募資格:一般・学生(18歳以上)]

公益社団法人消費者関連専門家会議(ACAP)では、1985年から毎年、消費者問題に関する啓発活動の一環として、ACAP消費者問題に関する「わたしの提言」を募集しています。

(1) テーマ

- ① わたしが考える消費者教育
- ② SDGs目標達成のために取り組むべきこと
- ③ 考えよう! 大人になるとできること、気を付けること ~18歳から大人に~
(令和4年度消費者月間統一テーマ)
- ④ 消費者と企業の共有価値の創造 ~新しい日常を考える~
- ⑤ デジタル化社会の実現に向けて
- ⑥ 消費生活に関する自由課題(テーマ自由)

(2) 応募作品数

53作品

(3) 審査結果

(敬称略)

賞	題名	氏名	所属等
最優秀賞 内閣府特命 担当大臣賞	小学生を対象とした新たな金銭教育の必要性 —お金と上手に向き合うために—	なかにし しょうま 中西 翔馬 ふくなが ともや 福永 智也	近畿大学文芸学部4年生 (姫路大学教育学部通信教育課程) 近畿大学理工学部4年生 (姫路大学教育学部通信教育課程) [大阪府東大阪市在住]
優秀賞 ACAP 理事長賞	生徒と創る消費者教育	やまなか 山中 みゆき	安城市立安祥中学校、 安城市立安城西中学校 [愛知県安城市在住]
入選	成年年齢の引き下げと若者に対する情報提供 の現状についての提言	ごとう なつき 後藤 那月	愛知大学法学部3年生 [愛知県名古屋市在住]
入選	医療サービスにおける消費者問題と今後の 課題について	すずき だいすけ 鈴木 大輔	公益財団法人慈愛会 今村総合病院 [鹿児島県鹿児島市在住]
入選	高等学校におけるこれからの消費者教育 —成年年齢引き下げを踏まえて—	なかほら あすか 中原 飛鳥	北翔大学 教育文化学部1年生 [北海道札幌市在住]

■論文は、表彰式終了後、ACAP ホームページ(<https://www.acap.or.jp/activity/enlightenment/teigen/teigenaward-list/>)に掲載いたします

■入選は五十音順で記載

(4) 審査状況

① 第一次審査(2022年10月21日実施)

応募53作品より12作品を選出 * 審査員は、ACAP会員等(消費生活関連の有資格者等)

② 本審査(2022年11月25日実施)

12作品より各賞を選出

* 本審査員

<審査委員長>	大藪 千穂 氏	日本消費者教育学会 会長
<審査委員>	増田 悦子 氏	公益社団法人全国消費生活相談員協会 理事長
	白石 裕美子 氏	第一東京弁護士会 弁護士
	片岡 進 氏	消費者庁 政策立案総括審議官
	村井 正素	公益社団法人消費者関連専門家会議 理事長

(5) 応募状況

項目	内 訳
応募数	53 作品(学生 67.9%、一般 32.1%)
応募者の年代	10代 7.5%、20代 60.4%、30代 7.5%、40代 5.7%、50代 5.7%、60代 5.7%、70代 7.5%、80代 0%、90代 0%、不明 0%
応募者の地域	北海道 3.8%、東北 1.9%、関東 18.9%、中部 54.7%、近畿 11.3%、中国 0%、四国 0%、九州・沖縄 9.4%
応募テーマ	①わたしが考える消費者教育 24.5% ②SDGs目標達成のために取り組むべきこと 24.5% ③考えよう! 大人になるとできること、気を付けること ~18歳から大人に~(令和4年度消費者月間統一テーマ) 11.3% ④消費者と企業の共有価値の創造 ~新しい日常を考える~ 5.7% ⑤デジタル化社会の実現に向けて 13.2% ⑥消費生活に関する自由課題(テーマ自由) 20.8%

以上